

阿蘇における草原再生について

- 阿蘇くじゅう国立公園（阿蘇草原地域）は、世界最大級のカルデラ地形とその上に広がる広大な草原景観が特徴。
- 千年以上に及ぶ放牧、採草、野焼きといった農畜産業活動の結果として維持。
- 農業形態や生活様式の変化、高齢化等により、草原維持のための作業が困難になりつつあり、近年は草原の面積の減少や変容が進み、草原環境が悪化。

阿蘇の草原面積の変遷(国土地理院発行地形図より判読)

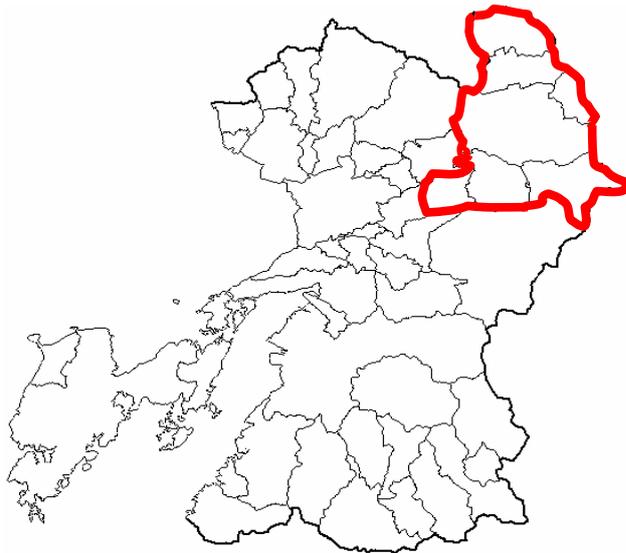


草原面積が大幅に減少 ※緑色部分が草原

- 環境省は平成15年度から「阿蘇草原再生懇談会」を開催し、大学・研究機関、地元農業者、NPO等と連携・協働して実証試験やモデル的試行事業を重ねつつ、阿蘇の草原再生に向けて検討。平成17年3月には環境省が草原再生に取り組むにあたっての目標、基本方針、施策案などを示した「阿蘇草原地域自然再生推進計画」を作成。
- 平成17年12月に自然再生推進法に基づく「阿蘇草原再生協議会」を設立。
- これまで2回の協議会を開催。平成18年3月の第2回協議会では全体構想（骨子案）について協議。

※骨子案で提案されている阿蘇草原再生の取組

- ・農業・畜産業を中心とした牧野利用と多様な形で牧野を維持管理する仕組みづくり
- ・希少種が多く生育・生息する多様性に富んだ草原環境の保全・再生と維持管理
- ・阿蘇の草原について理解し、愛着を持つ人々の拡大
- ・野草の堆肥利用促進など野草資源を活かした持続可能な仕組みづくり



自然再生の対象となる区域
(阿蘇を取り巻く7市町村約11万ha)



野焼きによる草原の維持



高齢化等により輪地切り(防火帯)作業等の管理が困難
(ボランティアの導入、輪地切り省力化)



野焼き作業の休止により、草原から低木林化しつつある
(火入れによる再草原化)



草原性の希少種であるハナシノブ(絶滅危惧IA類)の生息環境の悪化
(採草管理による生息環境の保全)

環境学習の取組事例



阿蘇草原ものしりカレンダー
子供たちに草原に興味をもってもらうため、イラストを中心に6つのテーマを季節にそって紹介



修学旅行生や地域の小学生を対象に阿蘇の草原環境学習を実施



農家が行う維持管理を作業支援し、草原の保全・再生を考える「阿蘇の草原環境を学ぶツアー」を実施
(牧野組合の指導のもと学生が輪地焼き(防火帯づくり)、採草に参加)